

自給飼料の生産委託、TMR供給により大規模繁殖経営を実現

「きもつき大地ファーム」(鹿^{かのやし}児島県鹿屋市)

1 概要

① <<概要・データ>>

- ・「きもつき大地ファーム」は、平成21年4月にきもつき農協、組合員4戸で設立。
- ・繁殖雌牛1000頭規模。繁殖・育成部門で分業化体制を構築した。

② <<特徴的な取組>>

- ・地域のコントラクター組織が収穫した、飼料稲、稲わら、イタリアン等飼料作物を活用したきもつき農協TMRセンターの完全混合飼料を利用。
(コントラクター組織の飼料作付け面積348ha分の粗飼料等を利用したTMRを1日28ト、年間で9000トを利用している。)
- ・JAきもつきが主体となって確立した繁殖、育成、飼料生産部門の分業化体制の中で、当経営体は繁殖牛の飼養を実施（生産子牛は分娩後～3日齢で親子分離し育成部門へ）。
- ・肉用牛の繁殖部門と子牛育成部門の分業化体制を構築し肉用牛繁殖基盤を拡大。
- ・きもつき農協TMRセンターからの完全混合飼料を利用した粗飼料自給率向上。
- ・IT（発情発見器）を使用した発情管理、ボディコントロールによる母牛の栄養管理、早期離乳、人工哺育、衛生プログラムに基づく子牛の下痢や肺炎対策等を実施することにより、多頭飼育技術を確立。
- ・畜産地帯肝属が、新たな肉用牛モデル基地として活躍することを期待。



↑繁殖牛舎



↑牛舎内部



2 その他今後の課題、目標等

- ・TMRセンターの活用による生産性向上、肉用牛の規模拡大の取組が重要。TMRセンター等の支援組織の育成が課題であり、今後もこうした取組の支援や普及を行っていくことが必要。

